

令和4年度 第1回松本市自殺予防対策推進協議会 要旨

1 実施日

令和4年6月3日(金) 午後2時00分～3時45分

2 場所

松本市大手公民館 大会議室

3 出席者

協議会委員26名(2名欠席)、オブザーバー:精神保健福祉センター2名、
庁内関係課長16名(2名欠席、2名代理出席)、事務局:健康づくり課

4 概要

(1) あいさつ

ア 塚田保健所長

イ 鷲塚会長

自殺の原因は、うつ病などの精神疾患だけではなく、生活問題・経済問題・家庭問題など多岐にわたる。医療者だけではとても解決できない。各団体一丸となって取り組みをお願いしたい。

(2) 役員報告

会長:信州大学医学部精神医学教室 鷲塚 伸介 氏

副会長:松本市民生児童委員協議会 塩原 正壽 氏

(3) 委嘱状交付(交代者のみ机上交付)

任期 令和4年6月1日～令和5年度6月30日まで

(4) 自己紹介

(5) 報告事項

ア 自殺の現状と自殺予防専用相談「いのちのきずな松本」の実績報告

イ 自殺予防対策関連事業報告

(ア) 松本市自殺予防対策推進協議会各団体

(イ) 松本市庁内連絡会議各課

(6) 協議事項

ア 令和4年度自殺予防対策事業について

イ 第3期松本市自殺予防対策推進計画について

5 議事における意見

(1) 自殺の状況について

ア 同居の有無で、同居人とは夫婦なのか親子なのか。その内訳の統計はあるのか。

【回答(事務局)】

同居人の内訳は不明。統計もない。

(2) 各団体の取組みについて

ア 各団体の取組みでも、コロナの影響を受けたことが多かったと思う。医療現場にいても、コロナの影響を受けている方々が多く見受けられる。

高齢者では、家の中にひきこもり、体力・気力・精神力の低下からメンタルヘルスに影響が出ている。障がい者では、サービスが停滞し、生活の崩壊につながっている。子どもでは、オンラインで友達との関係や学校再開で不登校傾向が現れたり、親からの虐待問題もある。今後、ウィズコロナ・アフターコロナの対策を考えていく必要がある。

(3) 第3期松本市自殺予防対策推進計画について

ア 長野県でも第4期計画策定作業を進めている。コロナで対面が制限された現状を踏まえ、オンラインを駆使したり、ICT を活用しハイリスク者への支援も進める。未遂者支援では、市町村・医療機関・消防等に情報収集を実施しており、共有しながら取組みを進めていきたい。

イ 計画の素案について、次回の第2回協議会で、委員の皆さんに具体的に意見をうかがってきたい。

(4) その他

ア ハイリスク状態を脱した方が、急に亡くなることもあると思う。相談現場では、結果が見えない。手探り状態。特に未成年のデータや情報が少ない。どうやって考えていけばいいのか。医療現場の鷺塚先生にご意見をうかがいたい。

【回答(鷺塚会長)】

自殺の原因は、亡くなってしまうと話を聞けないし、家族に聞いてもわからないことも多い。支援者が手を尽くしても、うまくいかないこともある。支援者の心のケアは必須。自殺は、エビデンスという言葉だけでは片づかないことも多い。情報の集約と取組みに対する分析を積み上げていくことが、成果に結びついていく。原因を言い切れる自殺はほとんどない。複合的な問題があり、難しい。一つの部署で支えるのではなく、多岐にわたって支える仕組みが必要。

6 今後の予定

【令和4年度 第2回松本市自殺予防対策推進協議会】

(1) 日時

令和4年9月26日(月)午後3時～

(2) 会場

松本市勤労者福祉センター

(3) 内容

ア 協議事項

第3期松本市自殺予防対策推進計画について

以上